



降りそそぐ太陽の光、土のにおい、吹き抜ける風、その場に息づく小さな生き物たち。都市部や住宅地では感じにくい自然を体感できる農村地域へグリーン・ツーリズムに出かけませんか。

農村流おもてなし ~グリーン・ツーリズムへようこそ~





農村流おもてなし

～グリーン・ツーリズムへようこそ～

グリーン・ツーリズムとは

グリーン・ツーリズムは、都市住民が余暇を利用して農山漁村に滞在しながら、自然や文化、人々との交流を楽しむことです。また、受入側の農山漁村においては、都市住民との交流を通じて地域の知名度・好感度の向上や、農家民宿や農家レストラン、直売所などを通じて農家所得の向上が図られるなど、農山漁村の活性化の原動力として大きな役割を担っています。

グリーン・ツーリズムのきっかけ

ここ10年ほどの間に、スローライフやスローフードのようなゆとりある生活に注目が集まるようになりました。また、短期間に名所・旧跡を巡る団体旅行だけでなく、地域の自然や人々と接する時間をつくり、日常生活から離れてゆっくりと癒やしを求めるような滞在など、旅行の形態が多様化したこともあり、グリーン・ツーリズムが推進されるようになってきました。

鹿児島島のグリーン・ツーリズム

本県では、豊かな食や自然などを生かして、農産物直売所や観光農園等を活用した交流、農作業等を体験しながら農家に民泊する修学旅行の受け入れなどの取り組みが、県内各地で展開されています。今も農村地域に脈々と息づく多様な風土、季節によって変化する農村地域の情景や食材などの旬の魅力は、都会で生活する人々にとって日頃触れることのできない貴重な財産です。

体験する



農村地域では、田植えや稲刈り、野菜の収穫、牧場での乳搾りのほか、山菜やきのこ狩りなどを体験することができます。その道の専門家である農家や地元の方々に学ぶ体験は、まさにグリーン・ツーリズムの醍醐味です。

地元の方々の豊富な経験と知識に触れ、交流が生まれることにより、その土地への愛着が生まれます。

泊まる



農村地域の生活や風土といった地域の魅力を体験するだけでなく、深く味わうことができるのが農家民宿です。そこには、採れたての新鮮な食材を使った郷土料理や、地域の旬や魅力を知り尽くした宿主らとの語らいなど、さまざまな魅力が溢れています。地元の方々との交流が、より思い出深い経験にしてくれます。

触れる



地元の方々が育てた農作物や、地域ならではの食材・素材を使った加工品を販売したり、それらをふんだんに使った郷土料理などを提供しているのが、農産物直売所や農家レストランです。県内の多くの農産物直売所では、生産者の名前や顔写真入りで商品を紹介するなど、消費者により安心して商品を購入してもらえよう努力しています。



グリーン・ツーリズムを推進しています



かごしまグリーン・ツーリズム協議会
事務局長 東川 美和さん

かごしま グリーン・ツーリズム 協議会

住 鹿児島市名山町3-9
問 ☎099 (248) 8185

かごしまグリーン・ツーリズム協議会は、県域のグリーン・ツーリズムの推進組織です。地域協議会や広域協議会、NPO法人などで構成されています。

鹿児島県は、農業県らしく、ほとんどの地域にグリーン・ツーリズムに関する協議会があり、実践者の皆さんの工夫によって地域の特徴を生かした活動が推進されています。

「グリーン・ツーリズム」という同じテーマに取り組む実践者同士で悩みを共有しあえたり、課題解決のヒントを出しあえたりできることがいいですね。

鹿児島県のグリーン・ツーリズムに関わっていたことで、地域の魅力がより細やかに掘り起こされ、伝わってほしいと願っています。

いちき串木野市 グリーン・ツーリズム 協議会

住 いちき串木野市上名3018番地
(いちき串木野総合観光案内所)
問 ☎0996 (32) 5256



いちき串木野総合観光案内所の金氣所長(写真右)とスタッフの皆さん

いちき串木野市グリーン・ツーリズム協議会では、民泊型教育旅行として、修学旅行生の受け入れを行っています。受け入れ日程が決まると、受け入れ家庭と連絡を取り合い、体験内容や犬猫などのペット情報を調査します。特に学校側は、体験内容を重視するところが多く、雨天時の体験内容まで調査することもあります。受け入れ当日には、引率の先生たちと各受け入れ家庭を巡回し、学生たちの様子や体験内容を受け入れ家庭と話し、怪我や病気の無いように気を配っています。

参加される家庭は徐々に増えてきています。協議会を立ち上げた平成23年には18軒でしたが、現在では34軒の方が参加されています。いちき串木野市は海もあり、山もあります。自然の全ての恵みを生かしてグリーン・ツーリズムに取り組んでいます。

参加される学生の皆さんの変化などを見るとびっくりしますね。到着したときと帰るときで顔つきが違いますし、帰るときに涙を見せて別れを惜しむ学生もいます。現在は受け入れが1学年のうち1、2クラス分くらいですが、将来的には1学年全てをいちき串木野市で受け入れられるようにグリーン・ツーリズムに取り組んでいきたいと思っています。

～まるごと田舎体験～



地域で取り組むグリーン・ツーリズム

NPO法人

プロジェクト 南からの潮流



地域おこしにとどまらず、さらなる文化的活動を推進

都市と農村との交流を目指し
さまざまな事業を展開

NPO法人「プロジェクト南からの潮流」の発足のきっかけは、昭和62年に加世田市（現南さつま市）で始まった「吹上浜砂の祭典」でした。

なかでも集落活性化事業として、南さつま市金峰町の長谷集落において都市と農村との交流を大々的なテーマに、さまざまな活動を行っています。

このイベントを単なる地域おこしだけにとどめず、さらなる文化的活動に押し上げようという思いを持った人間が集まり、平成8年にボランティアグループとして結成。平成13年にNPO法人化して現在に至ります。

山里の中にひっそりとたたずむ長谷集落は、15世帯21人の小さな集落。しかも過疎化と高齢化が進み、平均年齢は80歳を超えています。しかし現在も湧き水を使用し、棚田や滝といった素朴な原風景が広がる、魅力ある集落です。

メンバーは42人。南さつま市役所ロビーでのギャラリー運営、歴史的建造物の保存など、さまざまなイベントでの文化的活動や自然体験活動を通じたまちづくりを展開しています。

平成19年から始めた「田植え・稲刈り体験」には毎年10組ほどが参加して、地元住民や大学生、県職員と一緒に米作りのほか、ニジマス釣りや陶芸体験などを行っています。参加者の評判も上々で、毎年参加される方もおり、視察を

「都市と農村の交流をさらに図りたい」と語る田代昌弘理事長。

住 南さつま市加世田川畑2770番地32

問 ☎ / Fax 0993(52)7829



【田植え】長谷集落での米作り体験。毎年参加する常連の方もいる。



【稲刈り】収穫した米は10kg持ち帰ることもできる。



【しいたけ】米作りのほか、しいたけも栽培している。

される方も年々増えつつあります。

また、平成18年からしいたけ栽培も開始しており、収穫したしいたけは、長谷集落や地元で採れた特産品などを販売している「大坂ふれあい館」（平成24年3月オープン）で販売しています。

参加された都市部の方はもちろん、地元住民の方々の活力になっっていることを実感できるのが何よりもうれしいですし、手応えも感じています。

南さつまの地から
新しい流れを作る

「南からの潮流」という名称には、黒潮の暖かく力強い流れが幸を運んでくるように、私たちも南さつまの地から新しい流れを作っていきたいという思いが込められています。

今後は特徴ある食材を生かした新しい特産品の開発や、すでに実施しているウォークラリーの範囲を広げていくなど、さらに多くの方が訪れて交流が図れるような活動を企画していきたいと考えています。